



## 会員交流会を開催します

iくらぶは会員交流会を3月11日(月)午前11時30分から午後1時30分まで水戸市泉町の京成百貨店9階バンケットルームで開催いたします。会員の皆さまと茨城新聞社幹部、会員同士の交流を深めたいと存じます。

交流会では、軽食を取りながら懇談するほか、ミニ講演会やプレゼント抽選会などを予定しておりますので、ぜひご参加ください。なお、参加費1人500円を頂戴いたします。受付は午前11時からです。

参加申し込みは電子メールで返信するか、電話、ファクス、はがきでiくらぶ事務局へ。申し込み締め切りは2月28日。

iくらぶ事務局 〒310-8686 水戸市笠原町978-25 茨城県開発公社ビル 茨城新聞社内  
電話 029-239-3001、ファクス029-301-0360

## 成功させよう茨城国体

### 茨城新聞はオフィシャルサプライヤー

今年はいよいよ茨城国体が開催されます。「いきいき茨城ゆめ国体」(9月28日～10月8日)と全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」(10月12日～14日)。茨城新聞社は本県の報道機関として、また国体オフィシャルサプライヤーとして、大会を盛り上げ、成功させようとして取り組んでいます。

茨城新聞では「炎の継承」「プレーバック1974茨城国体」「カウントダウン茨城国体」「あの頃1974茨城国体」を連載してきました。県や市町村、企業、団体の準備状況も日々報道しています。天皇杯(男女総合優勝)の得点にも加算され、1～2月にかけて北海道で開催される冬季国体についても詳報しています。

開幕に先立ち各競技の魅力、見どころを伝えるとともに、出場選手たちを詳しく紹介します。競技を裏方で支える審判やボランティアらの姿にもスポットを当てていきます。

大会期間中は、全社を挙げて、各競技の模様をきめ細かく報道し、県民に勇気や感動をお伝えします。また、県外から訪れる選手や関係者らに茨城の魅力を発信します。大会後には、記録写真集「茨城国体グラフィック」(仮称)の発行を予定しています。



### スポーツ大会の記録送ってください

茨城国体、全国障害者スポーツ大会を契機に、県民にスポーツがさらに普及し、健康増進や体力の向上が図られることが期待されています。茨城新聞社は地域スポーツの振興を支援しようと、その一つとして本紙「えんじょいスポーツ」面の活用を呼び掛けています。

地域のスポーツ大会の記録を紙面掲載することは、参加者の励みや思い出になります。ぜひ大会記録や写真をお寄せください。

郵送、ファクス、電子メールでお寄せください。記録・写真送信の際は大会名、開催日、開催場所、記録、問い合わせ先の電話番号と責任者を必ず明記してください。全記録掲載が原則ですが、記録および写真の一部を割愛させていただく場合があります。写真は返却しません。

宛先 〒310-8686 水戸市笠原町978の25 県開発公社ビル 茨城新聞社編集局「えんじょいスポーツ」係

電話 029(239)3020

ファクス 029(301)0363

メール enjoy@ibaraki-np.co.jp

(記録はテキストファイルでお願いします)

## 県近現代史研究会に参加しませんか

茨城新聞社は2016年4月に創刊125周年記念事業の一つとして「茨城県近現代史研究会」を設立しました。茨城新聞は1891年（明治24年）の創刊以来、県内で起きた政治・経済・文化・社会などさまざまな分野の出来事を記事として記録しています。これは本県の近現代の史料といえます。地域貢献に取り組む当社は、本県近現代史研究の発展に寄与しようと、同研究会を設立しました。

設立後、総会、会員の研究成果を発表する隔月の研究会の開催、研究成果をまとめた会誌「茨城県近現代史研究」の発行を行っています。会員は現在40人です。

また、明治維新から150年に当たる昨年10月にシンポジウム「検証・茨城の明治維新」を県近現代史研究会と県立歴史館の主催で開催し、多くの県民にご参加いただきました。今後、シリーズとして明治、大正、昭和、平成を検証するシンポジウムを開催していく考えです。2019年度は、平成時代が終わることから、平成を取り上げようと、準備を進めています。

県近現代史研究会の趣旨にご賛同いただける県民の皆様のご参加をお待ちしています。どなたでも参加可能ですが、政党色を主張することは認めていません。会費は年2,000円です。参加申し込み、問い合わせは茨城新聞社編集局内に置く事務局をお願いします。

水戸市笠原町978-25 茨城県開発公社ビル 茨城新聞社編集局  
電話029-239-3020。



シンポジウム「検証・茨城の明治維新」

## NIB出前授業をご利用ください

県内の企業や自治体、団体の社員研修、職員研修に新聞を役立ててもらおうと、茨城新聞社は「NIB出前授業」に取り組んでいます。NIBは「Newspaper in Business（ビジネスに新聞を）」の略。茨城新聞社の社員が企業や団体に出向き、新聞の読み方や活用法を解説します。

内容は、各企業・団体の要望に合わせて、それぞれ設定できます。料金は、2～3時間の基本プランで講師料が1万円（税別）。ほかに教材代として、受講人数分の当日付の新聞代がかかります。

日本赤十字社県支部では広報担当職員のスキルアップに新聞のノウハウを生かそうと、NIB出前授業を活用し、記者経験者から、じかにプレスリリースの効果的な書き方などを学びました。

「短い言葉で簡潔に要点を伝える見出しの技術や、一番伝えたいことから書く新聞記事の書き方は、ふだんの広報紙づくりにも生かせる」との評価をいただきました。

NIB出前授業は新入社員研修でも利用されます。人事担当者から「取引先と打ち解けるには世間話も必要。雑談力を付けるのに、身近な話題が載っている新聞には、最低、目を通してほしい。社会の動きを知り、情報を的確に読み解く力も大切だ」と言われます。

NIB出前授業の体験型メニューとしては、気になる記事を切り抜いて紹介し合い、壁新聞に再編集するグループワーク「まわしよみ新聞」も用意しています。読む力、表現する力、プレゼンテーションやコミュニケーション力が遊び感覚で同時に鍛えられると、学校やまちづくり、企業研修の場でも導入され、全国に広がるワークショップです。

NIB出前授業の問い合わせは、茨城新聞社NIE事務局（地域連携室内）（電）029（239）3004、ファクス029（301）0361。